

令和4年度 霧島錦江湾国立公園霧島地域における
森林生態系保全のためのニホンジカ対策 検討会

議事概要

日時：令和5年2月21日（火）14:00～16:00

場所：えびのエコミュージアムセンター

1) 議事1「霧島地域におけるニホンジカ対策状況」

①意見及び質疑応答

- ・特になし

②その他、情報共有等

南谷委員	自衛隊演習場の付近でシカをよく見るため、過去に自衛隊に対して駆除を依頼したことがあるが実際には難しいようである。
	キシマタヌキノショクダイは調査を行ったが、発見できなかった。
	キシマイワヘゴは国立公園外でごく僅かな株が確認され、現地で保全されている。

2) 議事2「霧島地域における植生維持回復状況の評価」

①意見及び質疑応答

南谷委員	質問回答は理解した。結論として、評価案について問題ない。
矢部座長	現案の方法に基づく評価としては妥当と判断できるが、本業務における指標基準を達成した植生が90年代当時の植生と遜色ないかは、今後別の方法も含めて引き続き検討していくのがよい。
事務局 (環境省)	常緑広葉樹林などの指標種で、シカの嗜好性が低い種が選定されているが、シカの嗜好性が変わっていることや過去のシカの影響などを確かめることができないため、1990年代の植生の基準としてこの指標をもとに評価することで本年度の評価としたい。

②質疑応答

・指標種選定の妥当性について

南谷委員	常緑広葉樹林の指標種はシカが好んで食べないような植物が多く、このような選定で良いか気になる。
事務局 (一成)	指標種の選定時にもご助言をいただき、多くの議論があった。常緑広葉樹林は、構成する高木(林分)が全く異なる多様性が高い植生のため、統一した指標種を設定することが最も難しい植生であった。最終的には他の植生と同じ一律の基準で指標種を選定した。
矢部座長	指標種の選定は、90年代以前の植生調査資料も踏まえたものであるが、当時の植生や各エリアにおいてシカの影響がどの程度あったかは不明である。

・シカの嗜好性の変化について

南谷委員	なぜ、シカの嗜好性が変化するのかわかりたい。
矢部座長	植物に対するシカの嗜好性は、現存量が多く食べやすい、栄養が得やすいなど、諸条件に応じて変わる。採食していた植物が減少すると仕方なく優先順位が低かった他の植物を食べ始めることなどが考えられる。

・評価判定の解釈について

南谷委員	St.9ピクニック広場では、評価がLv.3となっていることが気になる。1990年と同じ状態という評価になるのか。
事務局 (一成)	資料2-3に解説が示したが、St.9は捕獲エリア中心に位置しており、近傍の捕獲地点は罠周辺で確認できるシカの頭数が少なくなった。1990年と全く同じ状態かと問われると回答が難しいが、今回の基準にもとづいて評価した結果、他地点は厳しい結果だが、この地点では指標種が出現しているという結果である。
南谷委員	1990年代の植生調査では、ピクニック広場付近は調査できなかったため、当時の植生がわからないので難しい。

③その他、情報共有等

・特になし

3) 議事3「関係機関によるニホンジカ対策の連携方策」

①意見等

矢部座長	このような各機関での情報交換は重要なため、連携による取組みの一つとして今後も継続してほしい。
------	--

②質疑応答

・シカ捕獲の実態について

林野庁	囲い罠の捕獲は、オスがメスを追い払う行動があるが、えびの高原ではメスが多く捕獲されている。なにか原因はあるか。
事務局 (一成)	えびの高原はメスの比率が高い印象がある。また、オスが罠に入り始めた場合、オスを優先的に単独で捕獲することもある。実際にはカメラで罠周辺のシカの誘引状況を見極めて捕獲判断している。

・植生保護柵の設置要望について

南谷委員	近年の調査によって、霧島地域で20種類程度のササが見つかった。植生保護柵を設置して保全してほしい。
事務局 (環境省)	具体的な場所や土地所有者・管理者等を確認し、関係機関と対応を検討する。

③その他、情報共有等

鹿児島県	今年度、効果的捕獲促進事業を活用して、人工塩場によりメスジカを誘引捕獲する技術の実証実験を行っている。効果が確認されたら情報提供を行いたい。
南谷委員	(具体的な連携方策ということではないが、)ミヤマキリシマの花粉分析を行った結果、九州全域のミヤマキリシマが雑種である可能性が示唆された。九州の固有種であることから大きな問題であると考えており、霧島地域というより九州一帯の課題として提言する。

4) 議事4「その他」

①意見

・特になし